



### 宝珠片

宮城 黄金山産金遺跡出土  
瓦製  
残存最大幅13.5cm、残存高9.0cm  
奈良時代(8世紀)  
個人蔵[宮城県涌谷町寄託]

奈良時代、一大国家事業として造られた東大寺の大仏。その造営には様々な苦勞があったはずだが、そのひとつに大量の材料の調達がある。大仏

本体を作る銅は主に山口の長門銅山から調達できたが、大仏の本体を光り輝かせるための鍍金を施さなければならない。しかしながら、それまでの日本では金が産出しておらず、輸入に頼っていたことは聖武天皇の悩みの種であった。

天平14(745)年から始まった大仏造立が佳境を迎えた天平21年(749)年の正月、聖武天皇のもとに、陸奥国守百濟王敬福より陸奥國小田郡から産出した900両(約13kg)もの砂金が献上された。この金を使って大仏に鍍金が施されることができ、無事に大仏が完成したと言われている。この日本初の金発見によって、関係者に対し昇任や授位が命じられ、小田郡は永年免税、陸奥国は3年間免税、さらに元号は天平から天平感宝に改められた(但し、同年さらに天平勝宝に改元)。聖武天皇の喜びがいかに大きかったかわかる。

今年度の考古資料相互活用促進事業による展示では、この産金遺跡からの出土品が出陳される。本品は瓦製の宝珠片で、宝珠の頂から6本の稜が伸び、六角の屋根の頂上に据えられていたと推定される。さらに本品には3箇所ほどにヘラ書きが見え、そのひとつは「天平」と読むことができる。「天平」の語が付いた元号には天平、天平感宝、天平勝宝、天平宝字があり、西暦729年から767年にあたる。そのため、本品は、この時期に産金遺跡に六角堂という特別な、おそらく仏堂的な建物があったことを示している。

奈良から遠く離れたこの地に産金を記念する仏堂が建立されたのか…本品を見ながら奈良と陸奥を結ぶ縁に思いを寄せてみてはいかがだろうか。 岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

### 展示品の みどころ

### 天神坐像

重要文化財  
木造 彩色 像高94.5cm  
鎌倉時代 正元元年(1259)  
奈良・興喜天満神社蔵



大和の名刹・長谷寺の鎮守であった興喜天満神社の社殿内に主神として祀られていた等身大の神像である。巾子冠をかぶり、黒色の袍と白い袴、それに襪を着け、胸前で笏を持ち、腰に太刀を佩いて安坐する。眉根を寄せ、やや下方を睨み、口を「へ」の字に結んで、内に籠めた忿怒の相を表している。目には玉眼を嵌入しているが、よく見ると白目部分に血走りを描くなど、現実的・写実的な表現にこだわった制作態度とも見える。

像内背部内剝面に墨書があり、正元元年(1259)に善阿弥陀仏の勧進によって造立された「与喜大明神」の「御正体」である旨が記されている。銘記に「天神」の語は見えないが、鎌倉時代初期成立の『長谷寺験記』の記載によって、その頃にはすでに天神信仰がこの地に浸透していることが確かめられる。また、像内頸部に納入された鏡に線刻された十一面観音像が、天神の本地に該当すると考えられることなどから、与喜大明神イコール天神とみなすことが可能であり、本像は現存する天神彫像として最古の作品と位置づけられる。なお、この納入鏡は六花形を呈し、中国からの舶載である可能性の高いものであるが、十一面観音像の線刻は日本において行われていると思われ、またその台座が長谷寺本尊像のいわゆる盤石座を表したとみられる蓮華付方座である点も興味深い。

像の作者は定かではないが、気品のある壮年の風貌を見事に造形化し、着衣の表現も簡潔ながら的確である。鎌倉時代中期を代表する優れた仏師の手になるものと推測される。

岩田 茂樹(当館学芸部 席研究員)

#### ◆名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

#### ◆名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

#### 開館日時(1月~3月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時

(開館時間延長日)

- ・午後8時30分まで 2月8日(日)~14日(土)
  - ・午後7時まで 1月24日(土)、2月3日(火)、3月12日(日)
  - ・午後6時まで 3月1日(日)~11日(火)、3月13日(金)、3月14日(土)
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日/1月1日、毎週月曜日(月曜日が祝日や振替

休日にあたる場合は、その翌火曜日が休館)

ただし、1月12日、2月9日、3月2日・9日は開館。

1月13日は開館。

#### 観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※2月3日(火)は無料観覧日ですので、すべての方が無料でご覧いただけます。
- ※青銅器館は無料になります。
- ※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。



(交通案内)近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

